

「日本在来種の馬」について

2019.10.30 鉄本メモ

来館者に「日本には馬がいなかった」という説明をすると、北海道からのお客様からは、「北海道には道産子という日本在来種の馬がいるが、これはどうなのですか？」というような質問が投げかけられます。そこで、日本在来種の馬について調べてみました。

【結論】日本には8種の在来種がいるが、すべて古墳時代に朝鮮半島から輸入された蒙古系馬である。

【詳細説明】日本には、次の8種の在来種馬がいる。①道産子、②木曾馬、③御崎馬、④対馬馬、⑤野間馬、⑥宮古馬、⑦トカラ馬、⑧与那国馬。道産子以外は個体数が100～200頭で絶滅危惧種となっている。

中国在来馬には、蒙古系馬と西南山地馬の2大類型があり、日本在来馬のうち南西諸島の小型在来馬は中国の西南山地馬由来という説があるが、遺伝子分析などの調査結果によりすべてが蒙古系馬由来であり、朝鮮半島経由で渡来ということが判っている。

①道産子 南部馬（明治期に絶滅）がルーツ。鎌倉時代に本州から和人が海産物の運搬使役用に持ち込み、帰りには置き去りにしたものが寒冷地に適応した体形になったもの。

北海道檜山郡上ノ国町の勝山館跡から14Cの馬の骨が発見されている。

道産子の特徴：a.エラが張っている b.後ろ脚がX型 c.測対歩（そくたいほ）

体高は130～140cm 北海道全体で約千数百頭いる。

（注）測対歩とは「ナンバ歩き」のように同じ側の足を同時に前に動かす歩き方 ⇔「斜対歩」

（注）北海道には、「ばんえい競馬」で有名な「ばん馬」がいるが、ルーツはアラブ種の血が入ったフランスのノルマンディやブルターニュ地方、ベルギーのブラバント地方由来の馬である。

②木曾馬 体高は133～136cm。6C頃に美濃国恵那郡（現、中津川市付近）で放牧が始まる。後ろ足がX状。長野県天然記念物。

③御崎馬 宮崎県都井岬の在来種 国の天然記念物 体高は130cm。

蒙古野馬（モウコノウマ）の特徴である背中の濃い線（鰻線）が見られる。

④対馬馬 対州馬（たいしゅうば）ともいう。体高は125～127cm。

弥生時代の佐護白岳遺跡に飼育した痕跡がある。

⑤野間馬 今治市天然記念物。1635年桑名藩主久松定行が松山城に転封した際に来島海峡の馬島（今治市）に軍馬の放牧場を作らせたことに始まる。体高は121cm。

⑥宮古馬 沖縄の天然記念物 14Cに九州から渡来。体高は110～120cm。

⑦トカラ馬 トカラ列島 鹿児島県天然記念物。1952年に鹿児島大学の林田教授が発見。

明治30年（1879）に喜界島から導入された馬。体高は100～120cm。

⑧与那国馬 与那国町天然記念物 体高は110～120cm。

以上

【参考文献】

- ・「東亜と日本在来馬の起源と系統」(1992年) 中央大学教養部 野澤謙 (J-STAGE 投稿)
- ・「道産子のルーツと可能性」(2017年) 北海道大学 産学地域協働推進機構 河合正人准教授
- ・「日本在来馬のミトコンドリア DNA 多型」(2009年) 東京農業大学 川嶋舟、颯田葉子
- ・WEB上の「日本馬事協会」、「HOKKAIDO LIKERS」、「Pacalla」、「馬の豆知識」より